Kagawa

ため池のある風景

空から香川県を見てみると、北の瀬戸内海と南の讃岐山脈にはさまれて讃岐平野が広がっている。人の手で開発され尽くした讃岐平野で目を引くのは、香川特有の昔話に出てきそうなおむすび型の山であり、平野に散らばるため池である。

水害と水不足、水に翻弄される風土

香川県は、温暖で降水量が少なく、日照時間の多い瀬戸内海型気候である。台風、地震などの大規模な災害にみまわれることは少ないが、水不足という問題に悩まされてきた。目に見える形で甚大な被害をもたらす災害は少ないが、香川で暮らす人々にとっては水不足が日々気に掛けなくてはならない関心事である。香川用水ができてからは実際に水不足で困窮する機会は激減した。しかしその水源である他県にあるダムの貯水率の話題が、夏場の挨拶代わりとなる。

満濃池をはじめとするため池が、雨が少なく大きな川もない香川の水源となってきた。その数は約1万4 500箇所で、県別で見ると兵庫県、広島県についで全国3位の数であり、密度では全国1位である。 現在見られるため池のある風景は、香川に暮らす人々が年月をかけて作り上げてきたものである。



オーテ

災害の少ない香川県であるが、地域によってはその環境に合わせて発達した建築の特異例を見つけることができる。高松の北4kmに浮かぶ女木島では「オーテ」と呼ばれる石垣が家々を囲んでいる。 冬になると島の人たちが「オトシ」と呼んでいる北西の季節風が山頂にあたり、方向を変えて吹きおろしてくる。海岸沿いの家は波しぶきをかぶり、さらに霧状となった海水が家の中まで入ってくる。これを防ぐために民家のほとんどは東向きに建てて、屋根の妻に面した南東側に屋根の高さほどの石垣を築いている。これを「オーテ」という。

オーテの大きさは、高さ3~4m、長さ15~20mが多い。オーテを築くにも多量の石材と労力を要するが、これらは島民自らの手によって築かれ、さまざまな石の積み方が見られる。また、これは築造した時代を物語ってもいる。積み石には女木島の安山岩や直島・庵治の花崗岩が使われている。





春日町の水屋

新川と春日川にはさまれた高松市春日町の一帯は江戸時代初期までは海だった所で、その後の活発な新田開発によって陸地となった地域である。海岸にも近いため地盤はかなり低い。そんな中に立派な石垣の上に建てられた水屋風住宅、香西邸がある。かつて春日川の土手が決壊して水害に遭い、それにこりて大正時代の改築の際に石垣を築いて家を建てたという。毎日の生活での上り下りは不便だが、周囲の住民からはいざという時の避難所として頼りにされていたという。1987年新川の決壊による水害が発生し、周囲の建物は多くが床上浸水したが、香西邸は無事だった。石垣は美しい色合いの安山岩で、飼石をかませない精緻な切込ハギ積みが、防災の意気込みを感じさせてくれる。





香川地域会名簿(五十音順)

赤松 和俊	秋山 裕英	荒木 秀人	井尻 誠言
磯野 達	大谷 政富	大野 晃貴彦	岡田 賢四郎
柿木 正治	公文 敏則	小林 克敏	小山 泰彦
斉藤 圭一	齊藤 正	佐藤 昌平	寒川 徹司
清水 泰	清水 康弘	多田 裕之	多田 善昭
冨田 妃登志	永野 利枝	野村 正人	平野 祐一
藤岡 旭	藤田 摂	松浦 仁郎	松田 保文
三井 武一	吉岡 直樹		